

●動作確認を行います

⚠危険

安全の為、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。重大事故につながる恐れがあります。



エンジン始動後は、本体から警告音(ブツ)が数秒間隔で鳴り始め、アイドリングの残り時間に応じて間隔が短くなり、連続音へと変わります。

⚠注意

車種によっては、キーをACCの位置にしないとシフトレバーが動かせないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで廻して確認して下さい。

⚠注意

右に記載している症状は、取付時に発生しなくても、数日後に発生する場合があります。症状が発見された時点で処置して下さい。

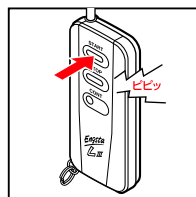
⚠注意

一部のお車(マツダ: ボンゴ・フレンドイ等)で、お取り付け直後のリモコン始動は出来るのに、二回目からのリモコン始動が出来ない(メーターパネルが点灯してもセルモーターが駆動せずリトライする)場合があります。この場合には、17ページの「キー始動学習機能」を行って下さい。

STEP-1

●リモコンのスタートスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、スタートスイッチ音(ビピッ)が鳴るまで押します。



STEP-2

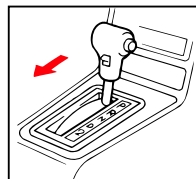
●お車のエンジンが始動します。

本体が信号を受信すると、まずメーターパネルが点灯します。そして数秒後にセルモーターが廻りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動(リトライ)します。

STEP-3

●シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンを始動させた後、キーを差し込まずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。この時エンジンが止まる事を確認します。車種によっては、キーをACCの位置にしないとシフトレバーが動かせないものもあります。



OK

以上動作確認は終了です。

■動作確認で下記の症状になった場合

症状

エンジンは始動しているのに数秒で停止してしまい、自動的に再始動(リトライ)が行われてしまう場合、又はエンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまう場合は…。

L端子検出へ変更

エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。詳しくは、12ページの「L端子検出へ変更」を参照して下さい。

症状

一部のディーゼル車等で、寒冷時に始動がうまく行われない場合は…。

始動パターン切替

グロー(予熱)時間がたりない事が考えられます。詳しくは、26ページの「始動パターンの切替」を参照して下さい。

症状

セルモーターの駆動時間が短いために、1回目のセル駆動でエンジンが始動せず、リトライしてしまう場合は…。

セル時間延長

セルモーターの駆動時間を学習させる事が出来ます。詳しくは、17ページの「キー始動学習機能」を参照して下さい。

症状

リモコン始動後にABS警告灯等が消灯しない場合は…。

ABS警告灯対応

キー始動学習を行う事で警告灯が消灯ようになります。詳しくは、17ページの「キー始動学習機能」を参照して下さい。

症状

リモコンでエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しない場合は…。

フットブレーキ検出

オートマチックシフトの検出がうまく行われていないと考えられます。詳しくは、14ページの「フットブレーキ検出へ変更」を参照して下さい。